

AMSD 結果の解釈と機能障害 by Shin

低下項目	詳細な観察・多項目との比較など	機能障害 (2:軽度 1:中等度 0:重度)	解釈	多いタイプ
1.呼吸機能				
(1)呼吸数		#呼吸機能低下 #吸気筋機能低下	呼吸筋の筋力低下や胸郭可動域の低下による吸気筋の機能低下により1回換気量が低下し、分時換気量を正常に保つため代償として呼吸数が増大する。	痙性・弛緩性・混合性(ALS・MS)
(2)最長呼気持続時間	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+) 努力性嘔声(+)	#呼吸機能低下 #肺容量低下 #呼吸筋の筋力低下 #胸郭可動域の制限	呼吸筋の筋力低下や胸郭可動域の低下による肺容量の低下により呼気持続時間が短くなる。	痙性・混合性(ALS・MS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 氣息性嘔声(+)	#呼吸機能低下 #肺容量低下 #呼吸筋の筋力低下	主に呼吸筋の筋力低下による肺容量の低下により呼気持続時間が短くなる。	弛緩性・混合性(ALS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 4.a.運動範囲とb.交互反復運動速度が乖離	#呼気の持続的調節機能低下 #吸気筋と呼気筋の協調運動障害	吸気筋と呼気筋が持続的に協調運動を続けることが困難なため呼気持続時間が短くなる。	失調性・混合性(オリーブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	外鼻孔を閉鎖すると成績が向上する。	#鼻咽腔閉鎖機能障害	呼気が鼻漏出するため呼気持続時間が短くなる。	痙性・弛緩性
(3)呼気圧持続時間	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+) 努力性嘔声(+)	#呼吸機能低下(上位運動ニューロン障害による) #声門下圧生成困難	呼吸筋の筋力低下や胸郭可動域の低下による肺容量の低下により発話に必要な声門下圧の生成が困難になる。	痙性・混合性(ALS・MS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 氣息性嘔声(+)	#呼吸機能低下(下位運動ニューロン障害による) #声門下圧生成困難	主に呼吸筋の筋力低下による肺容量の低下により発話に必要な声門下圧の生成が困難になる。	弛緩性・混合性(ALS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 4.a.運動範囲とb.交互反復運動速度が乖離	#呼吸機能低下(協調運動障害による) #声門下圧生成困難	吸気筋と呼気筋が持続的に協調運動を続けることが困難なため発話に必要な声門下圧の生成が困難になる。	失調性・混合性(オリーブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
2.発声機能				
(4)最長発声持続時間(男≦女)	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+) 努力性嘔声(+)	#呼吸機能低下 #肺容量低下 #呼吸筋の筋力低下 #胸郭可動域の制限 #発声機能低下 #呼気流量不足	呼吸筋の筋力低下や胸郭可動域の低下による肺容量の低下により発声のための呼気流量が不足し、結果として発声持続時間が短くなる。	痙性・混合性(ALS・MS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 氣息性嘔声(+)	#呼吸機能低下 #肺容量低下 #呼吸筋の筋力低下 #発声機能低下 #呼気流量不足	主に呼吸筋の筋力低下による肺容量の低下により発声のための呼気流量が不足し、結果として発声持続時間が短くなる。	弛緩性・混合性(ALS)
	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)と同程度に低下 4.a.運動範囲とb.交互反復運動速度が乖離	#呼気の持続的調節機能低下 #吸気筋と呼気筋の協調運動障害 #発声機能低下 #呼気流量不足	吸気筋と呼気筋が持続的に協調運動を続けることが困難なため呼気流量が不足し、結果として発声持続時間が短くなる。	失調性・混合性(オリーブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)

	(2)最長呼気持続時間(3)呼気圧・持続時間が(4)より良い	#発声機能低下 #声門閉鎖不全 #発声効率低下	反回神経麻痺などにより声門閉鎖不全が起こり、その結果発声効率が低下して発声持続時間が短くなる。	弛緩性
(5)/a/の交互反復(男≦女)	氣息性(+)	#発声機能低下 #内喉頭筋の筋力低下	内喉頭筋の筋力低下により声門閉鎖不全が起こり、その結果発声効率が低下して/a/の交互反復速度が低下する。	弛緩性
		#発声機能低下 #声帯内転筋と外転筋の相対的活動性低下	声帯内転筋と外転筋の相対的活動性低下により断続的発声が困難となり、/a/の交互反復速度が低下する。	失調性・混合性 (オリーブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	間欠的な失声や爆発声	#発声機能低下 #発声と呼気との協調的運動機能低下	発声と呼気との協調運動機能低下により断続的発声が困難となり、/a/の交互反復速度が低下する。	失調性・混合性 (オリーブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	声の大きさの変動	#呼吸機能低下 #断続的呼気排出機能低下	断続的呼気排出機能低下により結果として断続的発声が困難となり、/a/の交互反復速度が低下する。	瘻性・弛緩性・混合性(ALS・MS)
3.鼻咽腔閉鎖機能				
(6)/a/発声時の視診(男≦女)	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(瘻性・両側性)	迷走神経の中枢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)瘻性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害される。	瘻性・弛緩性・混合性(ALS)
	安静時に両側が下垂 AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(弛緩性・両側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害される。	弛緩性・混合性(ALS)
	安静時に片側が下垂 カーテン徴候がある	#鼻咽腔閉鎖機能不全(弛緩性・片側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の片側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害される。この場合病巣は延髄であることが示唆される(ワレンベルク症候群など)。	弛緩性・混合性 (ワレンベルク症候群:弛緩性+失調性)
	(7)(8)では軽度の鼻漏出 聴覚的印象において開鼻声()	正常範囲	軟口蓋の挙上は不完全であるが、咽頭後壁や咽頭側壁による閉鎖がなされ、鼻咽腔閉鎖機能は正常範囲である。	正常
(7)ブローイング時の鼻漏出(男≦女)	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(中枢性・両側性)	迷走神経の中枢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)瘻性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。	瘻性・混合性(ALS)
	視診において安静時に両側が下垂 AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(末梢性・両側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。	弛緩性・混合性(ALS)
	視診において安静時に片側が下垂 鼻息鏡の値に左右差がある。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(末梢性・片側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の片側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。この場合病巣は延髄であることが示唆される(ワレンベルク症候群など)。	弛緩性・混合性 (ワレンベルク症候群:弛緩性+失調性)
(8)/a/発声時の鼻漏出(男≦女)	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(中枢性・両側性)	迷走神経の中枢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)瘻性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。	瘻性・混合性(ALS)
	視診において安静時に両側が下垂 AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(末梢性・両側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の両側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。	弛緩性・混合性(ALS)
	視診において安静時に片側が下垂 鼻息鏡の値に左右差がある。	#鼻咽腔閉鎖機能不全(末梢性・片側性)	迷走神経の末梢性麻痺により軟口蓋の片側性の(完全または不完全な)弛緩性麻痺が起こり、軟口蓋の挙上が障害された結果、呼気が鼻漏出する。この場合病巣は延髄であることが示唆される(ワレンベルク症候群など)。	弛緩性・混合性 (ワレンベルク症候群:弛緩性+失調性)
4.口腔構音機能				
(9)舌の突出	成績は0または1	#舌運動機能低下(中枢性・両側性)	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の瘻性麻痺が起こり、舌の運動が障	瘻性・混合性

	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。	#舌の運動範囲制限	害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	(ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #舌の運動不正確	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じる。	運動過多性
	突出時に左右に偏倚する 他の舌運動範囲課題の成績が比較的良い	#舌運動機能低下(中枢性・片側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の中枢性・片側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	UUMN・混合性 (片側性脳血管障害に続発するパーキンソン症候群)
	突出時に左右に偏倚する 他の舌運動範囲課題の成績が比較的良い 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・片側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の末梢性・片側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ワレンベルグ症候群:弛緩性+失調性)
(10)(11)舌の左右移動	成績は0または1 他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #舌の運動不正確	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じる。	運動過多性
(12)前舌の挙上	成績は0または1 他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #舌の運動範囲制限 #前舌の運動範囲制限	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #舌の運動範囲制限 #前舌の運動範囲制限	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)
(13)奥舌の挙上	成績は0または1 他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #舌の運動範囲制限	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)
(14)口唇の閉鎖(男≦女)	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(中枢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の中枢性・両側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり、口唇の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(末梢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・両側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、口唇の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)
	口唇の閉鎖に左右差がある 上部顔面の運動障害がある 片側性の流涎(+) 筋の弛緩が著しく、安静時でも非対称性が際立っている(麻痺側の鼻唇溝が浅い、あるいは消失している)	#口唇運動機能低下(末梢性・片側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・片側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性
(15)口唇を引く	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(中枢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の中枢性・両側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり、口唇の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(末梢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・両側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、口唇の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)

) 口唇の引きに左右差がある(多くは軽度) 安静時には左右差が目立たず運動時のみ出現する	#口唇運動機能低下(中枢性・片側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の中枢性・片側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	UUMN・混合性(片側性脳血管障害に続発するパーキンソン症候群)
	口唇の引きに左右差がある 上部顔面にも運動障害がある 片側性の流涎(+) 筋の弛緩が著しく、安静時でも非対称性が際立っている(麻痺側の鼻唇溝が浅い、あるいは消失している)	#口唇運動機能低下(末梢性・片側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・片側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果顔面の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性
(16)口唇の突出	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(中枢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の中枢性・両側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射() 口尖らし反射()	#口唇運動機能低下(末梢性・両側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・両側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
	口唇の突出に左右差がある(多くは軽度) 安静時には左右差が目立たず運動時のみ出現する 上部顔面には運動障害がない	#口唇運動機能低下(中枢性・片側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の中枢性・片側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	UUMN・混合性(片側性脳血管障害に続発するパーキンソン症候群)
	口唇の突出に左右差がある 上部顔面にも運動障害がある 片側性の流涎(+) 筋の弛緩が著しく、安静時でも非対称性が際立っている(麻痺側の鼻唇溝が浅い、あるいは消失している)	#口唇運動機能低下(末梢性・片側性) #口唇の運動範囲制限	顔面神経の末梢性・片側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、下部顔面の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性
(17)下顎の下制	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射(+)	#下顎運動機能低下(中枢性・両側性) #下顎の運動範囲制限	三叉神経の中枢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の痙性麻痺がおこり、下顎の運動が障害された結果下顎の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射()	#下顎運動機能低下(末梢性・両側性) #下顎の運動範囲制限	三叉神経の末梢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺がおこり、下顎の運動が障害された結果下顎の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
	下顎が患側に偏倚する	#下顎運動機能低下(末梢性・片側性) #下顎の運動範囲制限	三叉神経の末梢性・片側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺がおこり下顎の運動が障害された結果口唇の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性
(18)下顎の挙上	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射(+)	#下顎運動機能低下(中枢性・両側性) #下顎の運動範囲制限	三叉神経の中枢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の痙性麻痺がおこり、下顎の運動が障害された結果下顎の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射()	#下顎運動機能低下(末梢性・両側性) #下顎の運動範囲制限	三叉神経の末梢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺がおこり、下顎の運動が障害された結果下顎の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
(19)舌の突出後退	成績は0または1 他の舌運動課題でも成績が低下する。 他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #舌の交互反復運動速度低下 #舌運動機能低下(末梢性・両側性)	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の反復運動速度が低下した。多くは仮性球麻痺の結果である。 舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が	痙性・混合性(ALS) 弛緩性・混合性

	舌の萎縮(+) 舌の運動範囲課題は比較的良好である	#舌の交互反復運動速度低下 #舌運動機能低下(失調性) #舌の交互反復運動速度低下	障害された結果舌の反復運動速度が低下した。 協同運動障害のために拮抗筋の収縮・弛緩が速やかに行えず、舌の交互反復運動速度が乱れたり低下したりする。	(ALS) 失調性・混合性(オリブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	舌の単発的運動課題・舌の発話課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(パーキンソニズムによる) #舌の交互反復運動速度低下	パーキンソニズムにより舌運動機能低下が起こり、舌の交互反復運動速度が低下する。単発的運動は比較的良好だが交互反復運動は不良(アンダーシュート)であり、また非発話課題は不良だが発話課題は比較的良好である。	運動低下性・混合性(片側性脳血管障害に続発するパーキンソン症候群・線条体黒質変性症で初発する多系統萎縮症)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #舌の交互反復運動速度低下	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じた結果、舌の交互反復運動速度低下が生じた。	運動過多性
(20)舌の左右移動(交互反復)	成績は0または1 他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #舌の交互反復運動速度低下	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺が起こり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 舌の運動範囲課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #舌の交互反復運動速度低下	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺が起こり、舌の運動が障害された結果舌の運動範囲に制限が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
	舌の運動範囲課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(失調性) #舌の交互反復運動速度低下 #舌の交互反復運動のリズムの乱れ	協同運動障害のために拮抗筋の収縮・弛緩が速やかに行えず、舌の交互反復運動速度が乱れたり低下したりする。	失調性・混合性(オリブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	舌の単発的運動課題・舌の発話課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(パーキンソニズムによる) #舌の交互反復運動速度低下	パーキンソニズムにより舌運動機能低下が起こり、舌の交互反復運動速度が低下する。単発的運動は比較的良好だが交互反復運動は不良(アンダーシュート)であり、また非発話課題は不良だが発話課題は比較的良好である。	運動低下性・混合性(片側性脳血管障害に続発するパーキンソン症候群)
	他の舌運動範囲課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #舌の交互反復運動速度低下	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じた結果、舌の交互反復運動速度低下が生じた。	運動過多性
(21)下顎の挙上-下制	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射(+)	#下顎運動機能低下(中枢性・両側性) #下顎の交互反復運動速度低下	三叉神経の中枢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の痙性麻痺が起こり、下顎の運動が障害された結果下顎の交互反復運動速度に低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c.筋力が低下している。 下顎反射()	#下顎運動機能低下(末梢性・両側性) #下顎の交互反復運動速度低下	三叉神経の末梢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺が起こり、下顎の運動が障害された結果下顎の交互反復運動速度に低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
(22)/pa/の交互反復	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇運動機能低下(中枢性・両側性) #口唇音の連続発話速度低下	顔面神経の中枢性・両側性の麻痺より顔面の痙性麻痺が起こり、下部顔面の運動が障害された結果口唇音の連続発話速度低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射() 口尖らし反射()	#口唇運動機能低下(末梢性・両側性) #口唇音の連続発話速度低下	顔面神経の末梢性・両側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺が起こり、下部顔面の運動が障害された結果口唇音の連続発話速度低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
	口唇の運動範囲課題は比較的良好である	#口唇運動機能低下(失調性) #口唇音の連続発話速度低下 #口唇音の連続発話速度のリズムの乱れ	協同運動障害のために拮抗筋の収縮・弛緩が速やかに行えず、舌の交互反復運動速度が乱れたり低下したりする。	失調性・混合性(オリブ橋小脳萎縮症で初

				発する多系統萎縮症)
	他の口唇運動範囲課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#口唇運動機能低下(不随意運動による) #口唇の交互反復運動速度低下	顔面の筋の突然の不随意的収縮により口唇の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じた結果、口唇の交互反復運動速度低下が生じた。	運動過多性
(23)/ta/の交互反復	成績は0または1 他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #前舌音の連続発話速度低下	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の交互反復運動速度低下が生じ、前舌音の連続発話速度低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #前舌音の連続発話速度低下	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の交互反復運動速度低下が生じ、前舌音の連続発話速度低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	弛緩性・混合性(ALS)
	舌の運動範囲課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(失調性) #前舌音の連続発話速度低下 #前舌音の連続発話のリズムの乱れ	協同運動障害のために拮抗筋の収縮・弛緩が速やかに行えず、舌の交互反復運動速度が乱れたり低下したりした結果、前舌音の連続発話速度が低下したりリズムが乱れたりした。	失調性・混合性(オリブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #前舌音の連続発話の不正確	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じた結果、前舌音の連続発話が不正確になる。	運動過多性
(24)/ka/の交互反復	成績は0または1 他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌運動機能低下(中枢性・両側性) #前舌音の連続発話速度低下	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の交互反復運動速度低下が生じ、前舌音の連続発話速度低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌運動機能低下(末梢性・両側性) #前舌音の連続発話速度低下	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の運動が障害された結果舌の交互反復運動速度低下が生じ、前舌音の連続発話速度低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
	舌の運動範囲課題は比較的良好である	#舌運動機能低下(失調性) #後舌音の連続発話速度低下 #後舌音の連続発話のリズムの乱れ	協同運動障害のために拮抗筋の収縮・弛緩が速やかに行えず、舌の交互反復運動速度が乱れたり低下したりした結果、後舌音の連続発話速度が低下したりリズムが乱れたりした。	失調性・混合性(オリブ橋小脳萎縮症で初発する多系統萎縮症)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 不随意運動(+)	#舌運動機能低下(不随意運動による) #後舌音の連続発話の不正確	舌筋の突然の不随意的収縮により舌の運動時に目標点が逸脱したり過剰な運動が生じた結果、後舌音の連続発話が不正確になる。	運動過多性
(25)下顎の下制(筋力)	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。 下顎反射(+)	#下顎筋力低下(中枢性・両側性)	三叉神経の中枢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の痙性麻痺がおこり、下顎の筋力に低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。 下顎反射()	#下顎筋力低下(末梢性・両側性)	三叉神経の末梢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺がおこり、下顎の筋力に低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
(26)下顎の挙上(筋力)	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。 下顎反射(+)	#下顎筋力低下(中枢性・両側性)	三叉神経の中枢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の痙性麻痺がおこり、下顎の筋力に低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	AMSDIIIにおいて全般的な低下がある。4.c筋力が低下している。 下顎反射()	#下顎筋力低下(末梢性・両側性)	三叉神経の末梢性・両側性の麻痺より咀嚼筋の弛緩性麻痺がおこり、下顎の筋力に低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
(27)舌の突出(筋力)	他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌筋力低下(中枢性・両側性)	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の筋力低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。 舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)	#舌筋力低下(末梢性・両側性)	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の筋力低下が生じた。	弛緩性・混合性(ALS)
(28)舌面の挙上(筋力)	他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌筋力低下(中枢性・両側性)	舌下神経の中枢性・両側性の麻痺より舌の痙性麻痺がおこり、舌の筋力低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性(ALS)
	他の舌運動課題でも成績が低下する。	#舌筋力低下(末梢性・両側性)	舌下神経の末梢性・両側性の麻痺より舌の弛緩性麻痺がおこり、舌の筋力低	弛緩性・混合性

	舌の萎縮(+) 線維束性攣縮(+)		下が生じた。	(ALS)
(29)口唇の閉鎖(筋力)	他の口唇運動課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射(+) 口尖らし反射(+)	#口唇筋力低下(中枢性・両側性)	顔面神経の中枢性・両側性の麻痺より顔面の痙性麻痺がおこり、口唇の筋力低下が生じた。多くは仮性球麻痺の結果である。	痙性・混合性 (ALS)
	他の口唇範囲課題でも成績が低下する。 両側性の流涎(+) 口輪筋反射() 口尖らし反射()	#口唇筋力低下(末梢性・両側性)	顔面神経の末梢性・両側性の麻痺より顔面の弛緩性麻痺がおこり、口唇の筋力低下が生じた。	弛緩性・混合性 (ALS)

[参考文献]

西尾正輝『ディサースリアの基礎と臨床1～3』インテルナ出版

西尾正輝『ディサースリア臨床標準テキスト』インテルナ出版

広瀬肇・柴田貞雄・白坂康俊『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』医歯薬出版